

新春文芸

新春に詠む短歌

百七歳の姑と生かされ夫とわれ新年の屠蘇の格別旨し

今年は、夫が傘寿を迎える節目の年であり、病身の私も長 寿の姑と元気に新年を迎えられた喜ばしい記念の年である。

南天の赤ふさふさと蘇りはや年の瀬を恙無く過ぐ

我家の庭の南天の実が眩しいほどきらきら輝き、一年を無事に過ごせた安堵と新年を迎える喜びを感じている。

空澄みてはるか紫峰を眺むれば白雲悠悠々旅ごころ湧く

ふと空の美しさに気付き見上げれば、ぽっかり白い雲が流れていて思わず自分も自由気儘に旅がしたいと思いました。

百歳の健康年齢楽しむを目標して歌詠み体きたえん

今や人生百歳時代。詠み書き、スポーツも無理の無いように七割ほどに頑張っています。平和な国が続きますように。

冬の日をハイビスカスは咲き継ぎぬ紅き花びら大きく張りて

秋になってもまだ雪があったので、部屋に入れたところ、次々と咲く。冬には不似合いが、元気で頼もしい。

仏壇を清めカレンダーのそり直しのつべ仕込めばわれに春来ぬ

仏壇を清掃しカレンダーを取替え、大鍋にのっぺい汁がふつふつと煮えている。あとは新春を待つばかり。

白き帆のきらめく水面は藍色にいよよ深みゆく霞浦の静寂

霞ヶ浦の湖畔で白い帆曳船を見てみると、此の世の憂さは、どこ吹く風、じんじんとしていた心も静寂に惹かれていく。

雀よ雀いずこに隠る人の世に小さき平安もちてきたれよ

近頃雀の姿をあまりみかけなくなつた。昔はよく見かけた最も親しい鳥なのに。帰ってきてほしいものである。

土浦の真鍋の坂は宿場にて昔を語る黒き板塀

水戸街道の真鍋あたりは昔の面影がよく残っていると教えてくれた人があつたので散策しました。民家の配置が印象的でした。

黄金の初日のひかりさす湖につり舟浮かび影絵のごとく

霞ヶ浦から昇る初日は敵かにそして格別美しく王ネの印象派の「口」の出を思わせる幸せな時間です。一年の幸と平安を祈りつ。

空澄みて紫峰となれる夕筑波混沌の世になだらかに立つ

空気の澄む特に冬の筑波は美しい。内外共に先行きの不安の世を想つ時、万葉集の東歌にも残る名峰つくばを仰ぎ見る。

これからの暮らし見据えて頑張らず紙繕りのように生きたし二人

時間に追われ暮らして追われ定年を迎えた。これからは、頑張るのはやめ日々の暮らしを見据えて睡まじく丁寧に生きたい。

七十年戦なかりし世を祝ぎて初日耀ふ予科練の湖

エンジン以外木と紙の零戦でB29を迎撃した無謀な戦争。それを放棄したはずの日本の憲法、はたしてありや戦後八十年は。

神戸から仙台までを飛行機に一人旅した小一の男孫

周囲の心配をよそに夏休みの孫は元気に神戸へ戻り、仙台のジジババも一安心。去年の息子宅のトップニュースでした。

はんなりと枝垂紅梅咲き初めぬ彩形よし香もほのかなり

娘の家の紅梅が開き初めた時、梅の木の高さも程よく花の色も上品で素朴な美しさと思わず見とれてしまいました。

常総の街に押し寄す濁流をへりに託せり命綱下りる

鬼怒川の堤防決壊し、人家や田畑に迫る濁流に、へりから救助の一本の命綱が下りるニュースを祈りと感動の気持ちで見詰める。

宇留野むつみ

市島 紀郎

瀬古澤 和子

井上 寛江

小松崎みずえ

栗田 幸一

渡部 克美

菊地 公代

大越 里子

山口 あさこ

平澤 良子

三浦清次郎

井上 秀子

佐藤 哲子

腰山 佑子

新春に詠む俳句

初晴れや後光のさして阿弥陀仏

土田 信子

去年の事は去った事。今年こそは家族全員が健康でありたい。阿弥陀仏様に心よりの祈願をするとき、眩しい後光を浴びた。

飾炭香る座敷の客となり

土屋佐奈江

飾炭の切り口、その菊花模様が光る。日本人の美意識の象徴とも言えるこの文化が、失われる事のない様に平和を祈る。

初詣結ぶ御神籤花となり

中嶋千恵子

初詣の御神籤が神社の大きな樹に結ばれていく。大吉も小吉も次第が増えてまるで花が咲いたよう。みんなの願いが叶いますように。

福寿草天を支へてをりにけり

根本 晴市

福寿草は、その絶妙な開き加減で、天を支えているかのようだ。アトラスのように、罰としてではなく、楽しみに、生き生きと。

初日の出瑞気広がり四方を包む

増田 洋子

一夜明けた元旦の朝は、空気が澄んで清々しい。自然に生気が湧いてくる。感謝の念と、今年も頑張ろうという思いになる。

刀剣の眠りを覚ます初明かり

山根 延子

鎌倉時代の一振りの名刀。見る者を拒むような鋭い刀身も今朝は博物館の窓より差し込む暖かい光りを反射していることだろう。

ひとりぐでに手を合わしおり初筑波

山本慶吉郎

いつも泰然自若として心の拠り所となる筑波山。とりわけ年明けに見る筑波山には尊崇の念が沸きひとりぐでに手を合わしている。

元日や朝日まぶしき筑波山

吉田 博子

時の過ぎる早さの中で、新年を迎えられた嬉しさ。いつもの朝日が元旦には一段と新鮮に感じられ、喜びと感謝が静かに湧き上がる。

新春に詠む川柳

初詣で出来る五体に先ず感謝

中島みさお

五体満足の人生が最高であろう。でも案外意識しないことが多い。せめて初詣の際、健康に改めて感謝したいものです。

祈願太鼓天までとどけ初詣

石引たか女

昨年九月「関東・東北豪雨」に鬼怒川の堤防が決壊し郷里が大きな被害を受けた。今年は穏やかな年で有れかしと唯唯祈る。

願い事箇条書きして初詣

富永 柳道

正月恒例の風景。善男善女で神社は大盛況。受験に就職、恋愛に結婚、世界の平和まで、両手に余る願い事。でも一番は家族の幸せ。

年女健康願う初詣で

久保田莉凡

神様にお願ひ事はたくさんあるが、新しい年代をスタートするにあたり、一番大事なことをまずはお願いいたします。

初詣で家族の福をまた願う

五十嵐一清

親から自分達まで毎年願ったことが今日の家族をつくった。これからも健康な日々励みますからよろしくお願ひいたします。

初夢を添削してる律義者

臼井 桃代

生真面目な人達は夢といえども辻妻合わせをするだろう。美辞麗句を並べ夢物語に作り代えている姿が目につかぶようだ。

親子孫絵馬を並べて初詣で

近藤 総夫

娘が孫を連れて里帰り、今年も筑波山神社へ初詣でに行き絵馬を奉納したがどこまで願ひが届くやら。

割烹着たたんで座る春の膳

谷藤美智子

母の大晦日は正月の準備、終わった頃は明け方、今年も良い年と祈りながら晴れ着に着替へ家族が春の膳に座るのを待っている。